

とどろき利治の

メーン!!

国会 一本勝負



発行元 民主党参議院比例区第5総支部

轟木利治事務所 参議院議員会館 518 号室 Tel:03-3508-8518 / Fax:03-5512-2518

こんにちは、とどろき利治です。

例年になく寒さを感じさせた今年の冬も、いつの間にか終わりを告げ、気がつけば国会の喧騒をよそに、永田町界隈の桜の木々は満開の花を身にまとっています。

「国会見学ツアー」の皆さんがお見えになりました

3月24日に、基幹労連の機関紙クイズに当選された13名の方々がお見えになりました。実は、小さなお子さんもいらっしゃるの、飽きないような工夫をいろいろ考えたのですが、委員会の傍聴に年齢制限があったり、何名以上でないとい子供向けの体験ツアーに参加できなかつたりと、なかなか思うようにいきませんでした。ただでさえ堅苦しい国会ですから、もっとお子さん方に興味を持ってもらえるイベントづくりを、要望しても良いのかも知れません。

しかし、話をさせていただくと、「これからも毎年やるんですか?」という質問が出るなど、みなさん喜んでいただけたようです。私としてもうれしく思いましたし、このような企画をまた考えるのも良いなあと感じました。



沢山の署名をいただきました

「ガソリン税等」暫定税率廃止を求める署名につきましては、本日現在3,729名ものの方々から署名を頂いております。AP交渉でお忙しい時期にもかかわらず、皆様から多大なるご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

その動向ですが、3月31日の参議院本会議でガソリン税等の暫定税率廃止が可決しました。地域によって実施時期に差が出るようですが、基本的に4月1日から1Lあたり25円、ガソリン価格が引き下げられることとなります。

一方、3月末をもって期限切れとなる他の法案については、衆参両院議長の裁定もあって、5月まで延長することで可決しました。国民の皆さんや経済活動への影響を回避できたこととなります。

今後は、財政・金融委員会や国土交通委員会でこの議論が展開されます。自民党は、ガソリン税の暫定税率の復活や道路特定財源の死守を唱えてくるでしょうが、現行制度を変えなければ、地方の実情に応じた分野への財源の配分は望めませんし、職員旅行費やカラオケセットの購入など、どう考えても不透明な使われ方を直すこともできません。

ぜひご理解を賜るとともに、皆様の引き続きのご支援をお願いいたします。



環境委員会で質問しました

25日の環境委員会では、鴨下環境大臣が行った所信表明(初めて開催する委員会で大臣が行う、政府としての委員会運営方針演説)に対して質問をしました。

私は廃棄物・リサイクルに関する質疑を担当し、現行リサイクルの問題点と政府の対応方向を質すと同時に、再活用できる廃棄物が輸出されている現状を踏まえ、国内で発生した廃棄物は国内のリサイクルシステムで処理し、再生資源として活用できる仕組みづくりが必要ではないか、と主張させていただきました。

環境省、経済産業省ともに、基本的な考え方の相違はなかったと受け止めておりますが、資源のない日本が今後も付加価値の高い製品を作っていくためにも、答弁に沿った早急な対応が必要と考えます。20分の持ち時間はやはり短く、用意した数の半分ほどしか質問することができませんでしたが、今回できなかった分については、またの機会を捉えて質問していこうと考えております。

大臣や担当者の答弁内容も含め、質問内容をまとめてみましたので、お目通し頂ければ幸いです。



今回は以上です

質疑・答弁要旨

轟木利治 「資源生産性」の概要と具体的な方向性は何か。

国務大臣 資源生産性とは、より少ない資源でどれだけ大きな豊かさを生み出しているかを総合的に表す指標であります。第二次基本計画においては、資源生産性を二〇一五年に二〇〇〇年から約六割向上させることを目標にしております、この達成に向けて3R政策を中心に関連施策を積極的に推進していきたいと考えているところでございます。

轟木利治 廃棄物が資源として評価され、確立したはずのリサイクルシステムが成り立たなくなっている。一例が鉄くずの価格高騰であり、希少金属を含む携帯電話の回収台数が低位なことである。日本には天然資源がないが、製品として使用した廃棄物の中には、貴重な資源が残っている。国内で発生した廃棄物は原則として国内でリサイクルしていくことが非常に重要であると思うがどうか。

国務大臣 まさしく先生おっしゃることに私も同感でございます。循環型社会構築に当たっての基本的な考え方として、国内で発生した廃棄物についてはまず国内で処理することを原則とすべしと考えます。今後の政策の方向性としては、廃棄物の発生抑制を最優先に進めるとともに、廃棄物からの資源回収に一層取り組むことが必要だろうと思っております。

轟木利治 エコタウン事業、ゼロエミッション構想について聞きたい。現在エコタウンプランとして承認されている二十六件の稼働状況、採算状況並びに今後の方向性について説明を願う。

政府参考人 まず稼働状況につきましては、三分の二が六〇%以上の稼働率になっているということでございます。それから、採算状況につきましては、収支実績の回答のあった三十六事業のうち、この時点では二十四事業が単年度収支の黒字になっているということでございます。事業者が持続的な発展基盤を整えていくということからいたしますと、いわゆる規模の利益ということも考えながら、より大きな域内で資源の調達と処理の拡大をして経営の安定化につなげていくということではないかと思っております。経済産業省といたしましては、関連の事業者それから地方公共団体とも引き続き緊密に連携をいたしまして必要な対応を取ってまいりたいと考えております。

轟木利治 六〇%以上の稼働が三分の二で、二十四件が収支が黒だというのも解せない数字。リサイクル事業というのはそんなにもわかるわけではなくて、企業も社会的責任として取り組んでいると思うので、しっかりフォローのほどを願う。

リサイクルの関係の問題点について聞きたい。まず、再生年賀はがきの古紙配合比率問題での企業側の行為は、国民の皆さんに対する裏切り行為である。この問題に対する環境省の受け止めと今後の対応はどうか。また、技術上や回収上の問題点はなかったのか。

国務大臣 本問題はグリーン購入の信頼を揺るがし、今先生おっしゃるように、特に国民の無償の努力あるいは善意によって進められてきたリサイクル社会を言わば著しく損ねた、極めて重要だというふうに思っています。各製紙メーカーに対しては、過去の偽装について国民が納得できるようにけじめを付けるべきだと、こういうようなことを申し上げてきました。

また、今技術の問題というようなこともお話になりましたけれども、各メーカーがやれるということとで導入したわけでございますので、残念ながらそういう期待を裏切ったということでもあります。今後具体的に現実に即してどのような形でやるかというようなことは、今まさにメーカーが対応策を順次進めているところでもありますから、それを見極めてしっかりと環境省としても取り組みたいというふうに思っております。

■ 轟木利治君 次にペットボトルのリサイクルについて聞きたい。販売量と回収量の差が十八万トン、また回収量と再商品化量の差が十七万トン、単純に三十五万トンぐらい行方不明になっているわけだが、この状況についてどうか。

■ 政府参考人 回収が確認されていない十八万トンにつきましては、海外へ輸出されましたか、あるいは再商品化のために回収されず処分がされたものと考えております。また、回収が確認されたにもかかわらず国内で再商品化とならなかった十七万トンであります。これも海外へ輸出されたものも一部ございますが、国内での再商品化の過程での残渣として処分された部分もあるというふうに考えております。

今後は回収されずに処分されるペットボトルを減らすために、市町村のより適切な分別収集を更に推進いたしますとともに、適正かつ安定的なリサイクルを図るために、分別収集されたペットボトルの指定法人への円滑な引渡し等を促してまいりたいというふうに考えております。

■ 轟木利治君 そうすると半分が処分されているということ、まあ輸出もあるかと思うが。毎日ペットボトルを買って、ラベルをはがして、すすいでちゃんとしている国民の皆さんに対して、こういった状況というのは、その信頼を裏切ることにもなる。やるのであれば徹底的にやっていただきたい。

それから、本来であればこのペットボトルも、ガラス瓶みたいなようにそのままの形で使うのが本来求めるべき姿ではないかと思うが、そこら辺の方向性について伺いたい。

■ 政府参考人 ペットボトルを始めとした容器包装につきまして、特にリユースの促進とかデポジットなどの活用による循環的な利用促進について検討するための研究会を設置いたしまして、今月七日に第一回の会合を開催したところであります。

安全性の確保とか、あるいは品質保持、また回収システムの構築など論点も多いわけではありますが、本研究会では様々な立場の方々の御意見を賜りながら、ペットボトルを始めとした容器包装の循環的な利用の在り方について検討してまいりたいというふうに考えております。